



優勝V2



第7回あづまU15サッカー大会



福島民友



8/18(月) 新聞「福島民友」に大きく掲載されました。



| | |
|------|----------------|
| 優勝 | アバンツァーレ仙台 |
| 準優勝 | 勿来SCS |
| 3位 | ジェイム福島FC |
| 4位 | アバンツァーレ仙台 セカンド |
| 敢闘賞 | 岳陽中 |
| あづま賞 | NFC ビバーチェ |

セカンドチームも見事4位入賞!

アバンかわらばん ジュニアユース

2014年9月号

「ジュニアユースかわらばん」創刊後記

先月から「ジュニアユース(中学生)のアバンかわらばん」を発行しています。反響は上々、「どうして僕達の時にはやってくれなかったの?」と卒業生からの愛のクレームも頂きました。文章は多め、大人も楽しめる読みごたえのある記事を多く掲載していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひします! 話は変わりますが、本を読まない子が増えていると感じます。「本」は、賢さを育む最高のコーチです。サッカーにおいて、特にジュニアユース年代から、「賢さ」は必要不可欠な要素とまで間違いないです。本を読んでいる子、または文章を書く子(サッカーノートに真剣に取り組んでいる子)とそうでない子の、成長速度の差は歴然です。選手の皆様、まずは、この「かわらばん」を読み、その記事の背景、仲間やコーチの想いを読みとってははどうでしょうか?



ジュニアユース選手紹介!

3期生キャプテン 土岐成成(現高2) OB編
アバンジュニアSC→アバンジュニアユース→仙台一高

どうも、アバン3期生のキャプテンを務めさせていただいた土岐成成です。思えば、小4~中3と、実に6年間、60才まで生きるとしたら人生の1割をアバンで過ごしたことになります。引退してから一年、まず思う事はアバンという環境がどれだけ恵まれていたかについてです。厳しいながらもサッカーを楽しめる練習、それを提供してくれるコーチとチームメイトがいたということは僕にとっては誇りです。6年間、生活の中心に据えたものは間違っていないかと胸を張って言うことができます。また、現役生も思い当たる節があるかもしれませんが、コーチの指導というのは大きな大きな伏線となっているのです。遠征でご飯が食べられなくて泣いた事、サッカーノートを書いたという事がバツバツ泣いた事。それらは必ず今後の人生に良い影響をもたらすと思います。まあ僕も17才なので大きな事は言えませんが。(笑) コーチの話で印象に残っているのは「例え僕の教えが間違っていたとしても、それを全力でやれるチームは強い」というものです。これの意味は分かると思うので省略します。現役生の皆さん、貴方達はもしかすると、一生で最も輝いている時期を過ごしているのかもしれませんが、この喜びはもう二度とやってこないかもしれない。どうせやるなら、コーチが恥ずかしくなるほど本気でやろう! OB戦、楽しみにしています! 最後に、僕の大好きな先輩(2期生キャプテン)嶋田達さんの言葉を。「皆がゴールって思ってる所がスタートだったりするんだよね。そう考えるとワクワクしない?」

8月18日掲載 福島民友スポーツ欄 ※一部抜粋

昨年と同じカードになった決勝。勿来SCSを逆転で下したアバンツァーレ仙台が優勝を決めた。重宝は「普段の練習の成果を試合で出せた」と選手をたたえた。先制したのは勿来SCS。ロングシュートで先制。すかさず反撃した仙台はDF片岡暖がミドルシュートを決め、前半を1-1で折り返した。迎えた後半、細かくパスを回す仙台のサッカースタイルが功を奏した。パスを受けた主将のMF嶋岡響がシュートを放ち、GKがはじいたところをFW小島丈がゴールに流し込み決勝点を挙げた。小島は「優勝につながるプレーがしたかった」と振り返り、嶋岡は「パスをつなぐ自分達のサッカーを披露できた」と胸を張った。

今回の大会は、立派なスタジアムで準決勝、決勝を観戦して楽しかったです。面白かったのが、電光掲示板でプロの試合のように試合の様子が現在進行で映し出されていたことです。ピッチの様子が直接観るより、その映像を電光掲示板で観る方が見やすく、コーチはずっとそっちの方ばかりを観ていました。うちのサッカーの長所、短所がすぐよく分かりました。そして、優勝を決めた後、コーチも選手もすごく気にしていたのが新聞社の取材です。去年もデカデカと掲載されていたので、今年は何をしゃべるのか、選手は誰が取材を受けるのか、かわいい女子記者が来るのか、ワクワクしていました。ところがそれらしき人が見当たらず、閉会式が近づき、がっかりしていたところようやく記者(おじさん)が声をかけてくれました。それが上記の記事なのですが、たくさんしゃべった割には各々一言くらいの掲載。ちょっとがっかりです。ということで、内容を補足します。★記者「先制された時、どう思いましたか?」★選手「GKの頭上を越えるロングシュートを打たれた訳ですが、それはある程度覚悟の上で、積極的にDFラインを上げ、GKも含めて攻撃的にボールを支配しようとした結果なのであてませんでした。」先制されはしましたが、自分達のペースであることには変わりなかったため、引き締まじつくりゲームを組み立てたのが良かったです。「観ていて楽しいサッカー、やって楽しいサッカーをピッチ上で表現できたのではないかと思います」★記者「勝因は何だったと思いますか?」★コーチ「このチームは『文武両道』がテーマです。その取り組みがサッカーにも良い影響をもたらすと信じています。今回は2日間、日帰りの遠征だった訳ですが、大会だからと言って特別な事をせず、普段の取り組みである『自主学習』『自主練習』に取り組む姿がありました。一時間強のわずかなパス移動の時間に参考書を開く姿、それが普通だというチームの雰囲気とその姿勢が表れていました。今回、最高の結果が出ましたが、この大会で急にレベルアップした訳でもありません。チームのよい部分は自信を深めましたが、課題は依然変わりません。

アバンからの個人賞受賞者

- <大会最優秀選手賞> 藤田光樹(中3) 「スタンドがどよめくほどの華麗なボールコントロールを魅せてくれました」
- <優秀選手賞> 嶋崎未来斗(中2)



やることに意義あり



ジュニアユースの取り組み!



実際のサッカーノートです。!

ジュニアユースの重要な取り組みの一つに『サッカーノート』があります。サッカーノートは各自2冊準備。コーチと交換ノートのように毎週交換します。『自分の為に自分を振り返る』ことが目的です。サッカーノートを見るだけでも、いかに中学生3年間が重要な時期かが分かります。最初はただ『提出すること』『コーチにコメントをもらうこと』だけだったものが、しだいに自分を深く見つめ直すものになり…。その成長には驚くべきものがあります。

★ある選手のサッカーノート

U15リーグ vs エナブル 今回の試合は特別に気合いが入りました。相手はエナブルでした。今まで何度も練習試合をして下さり、一緒に成長してきました。そのエナブルと最後に公式戦でガチンコで勝負しました。気合いが特別に入ったのも、そういうことだったからだと思います。今回は最高にいい試合をしました。コーチが、負けてもすがすがしく終われるようにしよう、と言ったとき、新人戦のエナブル戦を思い出しました。あの時は試合に負けたうえ、相手のプレーに対してストレスがたまり、そのストレスを審判へのアピールなどに当ててしまいました。本当に技術でも人間性でも負け、最悪な試合でした。今回はそれだけではないようにしました。

試合は予想通り楽しい試合になりました。前半から退場者を出すなど危険なプレーも多くありました。しかし、アバンは文句を一切言うことなく、試合に集中しました。本当にメンタルが強くなったと思います。相手にどんなことをされても動じない強いメンタルです。あのときに比べてずいぶん大人になりました。今回は試合にも勝てたし、そういうメンタル面や人間性でも上をいったように思います。自分は全力を出し切りました。きっとみんなもそうです。ベンチの人も全員で全力を出し切り、全員でもぎとった勝利です。あの緊張感、あの興奮と感動。とてもよい経験となったし、一生忘れません。今回は勝てました。でもまだ終わりではありません。一部に上がるにはあと一回勝つ必要があります。ここで負けてしまえば全てが水の泡です。確かに経験という意味では水の泡とは言えないかもしれませんが、結果的にはそうです。

そしてこの大事な公式戦の最終戦に僕は累積警告で出れません。もう、3年生とも、2年生とも、1年生とも、公式戦のピッチには立てません。みんなと一緒にプレーするのが今回で最後となってしまいました。ですが、前回同様、アバン全員で戦いましょう。相手も一部昇格の権利があるので、生半かな気持ちでは戦ってこないと思います。もし、負けても自分達のサッカーを信じ、コーチを信じ、仲間を信じ、このメンバーでできる最後の公式戦を楽しみましょう。そして、一部昇格して最高の形で終えましょう。



このサッカーノートが書かれたのは、この子達の年代の公式戦のクライマックス、県リーグの最終戦直後です。勝てば県1部昇格戦に出場、負ければ(引き分けても)そこで公式戦が終了するという状況でした。この時のメンバーのサッカーノートはどれも秀逸で、自分の抱いた言葉にあふれたものでした。上記のノートでコーチが感動したのは『今まで何度も練習試合をして下さり、一緒に成長してきました』という一文です。最後の一番でそのような心境になった事にこの子の成長を強く感じました。そして、この時のチームのモチベーションは、県1部昇格よりも、今まで勝てなかった相手に勝つことでもありませんでした。1部昇格戦に進出し、もう数週間公式戦の引退がのびて欲しい。次の試合の為に、もう少しだけみんなで楽しく練習する時間を持ちたいという一念でした。コーチも気合いが入りました。どんな大きな大会の決勝戦よりも、カが入った試合だといったもいいです。そのサッカーノートの内容の後の話ですが、結局、この子はイエローカードの累積で大事な昇格戦には出場できませんでした。そして、ベンチでの彼の姿はコーチは一生忘れません。まるで、自分がピッチで戦っているかのように、一つ一つのプレーに一喜一憂し、怒ったり、笑ったり、大きな声で指示を出し、仲間を勇気づけ、自分自身も楽しんでいました。試合は、まさかの敗退。僕の最終戦となりました。彼は現在高校3年生。城南高校サッカー部のキャプテンとして、最後の高校サッカー選手権にチャレンジします。公式戦の引退を間近に控えた現ジュニアユースでも、サッカーノートの質の向上が彼らの成長の一つの目安になることでしょう。

2014夏の思い出 2014 Grow up Cup

秋田遠征



初優勝

ちょっとはしゃぎ過ぎましたが... 結果もしっかり残せました!



夏休みの初っ端は、全学年参加の秋田遠征!なんと宿泊所は海の家! 最初からテンション全開!海水浴、かき氷、なまはげに、ビーチサッカー、夕陽を見ながらの食事。そして大会は優勝です!これ以上ないくらい夏を満喫しました。女将さんとの出会いや一緒に泊まった仙台FCさんとの交流も最高の思い出です!

意地でも実行!



こんな時でも自主学习!



夕食前の課題



なまはげに切られる!



リフティング 階段登り

※できなければ夕食抜き。

かわらばん編集後記

ここには掲載しきれませんでした。7/26~28岩手遠征にて『クラブユース東北復興支援大会』に宮城県代表として出場しました。入賞はできませんでしたが、すべての試合が接戦。自分達の力に自信を深めると共に、勝負弱さに気づかされる遠征となりました。その夕食の席で『3分間スピーチ・お題は感動した話』を行いました。そこでのある選手のスピーチです。『小学6年生の頃、トレセン(選抜チーム)に選ばれたのですが、そのコーチの言動がむかついて、練習をサボるようになってしまいました。ある日、その時チームの担当だったコーチから1本の電話がありました。『お前には期待している。そして、サッカー選手たるもの、目の前のコーチに評価されるよう全力を尽くすことが大切だよ』その電話で、今まで持っていたコーチへの反叛心やわだかまりが消え、今では感謝の気持ちまで持てるようになりました。その言葉を胸に、今でも頑張っています。素晴らしい話だと思いませんか。そのコーチの一言も感動的ですが、その言葉を自分なりに考え、自分の成長につなげた彼も素晴らしいと思います。たまたま違う遠征で、彼の恩師に出会うことができ、この話を伝えましたが、恩師の涙腺をゆるませてしまったようです。皆さんも様々な出会いや環境をプラスにしていきましょう。卒業しても必ずお世話になった人には声をかけましょう。

